

目 次

P1 新支部長あいさつ	県支部長 福田 一郎
P2 新役員の紹介	
《特 集》	
P4 協賛団体若手技術者の紹介	晃洋設計測量株式会社 本保 優樹氏
P4 令和 5 年度 年次大会、講演会、合格祝賀会及び年次大会懇親会の報告	
1.年次大会	県支部幹事 西谷 元則
2.講演会	県支部幹事 谷口 雅紹
3.合格祝賀会及び年次大会懇親会	県支部幹事 新井 達雄
《活動報告》	
P7 「令和 4 年度_技術士を志す方への情報提供講座」について	県支部幹事 宮下 治
P8 「第 15 回いちかいサシバの里めぐり」ミニ浮島ワークショップの報告	
	いちかい浮島プロジェクトメンバー、県支部協賛団体 井上 剛
P9 令和 5 年度_7 月期 CPD 講演会の報告	県支部幹事 宮下 治
《投 稿》	
P10 上下水道コンサル若手技術者交流会の開催	県支部協賛団体 3 社
P11 広報委員長のよもやま話	県支部広報委員長 西谷 元則
P12 協賛団体紹介	
P12 編集後記	県支部広報委員長 西谷 元則

新任支部長あいさつ

栃木県支部支部長 福田 一郎

去る6月15日、本部理事会で栃木県支部長に選任されました福田です。支部が発足し12年目となります。初代菅井俊郎氏、2代目小黒幸市氏、前支部長黒須重富氏が積み重ねてきて下さった実績を踏まえまして、微力ですが支部の舵取りを担っていきたくと思っていますので、よろしく御協力、御支援をお願いいたします。また、支部発足のモットーであります「地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋に」に少しでも活動実績が伴うよう、14名の幹事と共に支部運営に努力して参りたいと思っています。今年度の執行方針や行事等につきましては6月11日の年次大会で示され、本号に報告されています。5月にコロナ禍による行動制限も解除されたので、特に次の3点に重点を置いて活動して参ります。



1.支部活動の活性化

会員238名（正会員174名 準会員64名 17部門）の内、企業内技術士として約200名がいます。会員各人がそれぞれの立場で活動に参加できるよう、意見を聞きながら支部を活性化していきたいと考えています。また、技術士を目指す女性技術者に対して情報交換等ができる場も新たに提供していきたいと思っています。

2.会員の資質向上

社会は高齢化、少子化、地球規模での環境変化、AI、DX等目まぐるしく変容しています。我々技術士はこれらの社会環境の変化に的確に対応できるよう、日々の自己研鑽を継続的に行う責務があり、技術士のCPD活動をさらに充実して参ります。

3.地域貢献

中小企業支援や地域防災力向上に資するよう産学官と連携するとともに、協賛団体（24団体）にも引き続きご支援をお願いし、技術を通して地域との懸け橋となれるよう努力して参ります。

最後に、これらを着実に実行していくため特に「挑戦」、「継続」、「連携」に意を用いて県支部を運営していきたいと思っています。あらためて会員の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

新役員の紹介（五十音順）

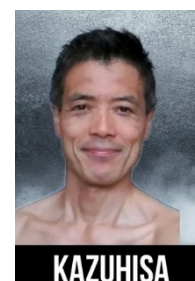
【石附尚志（電気電子部門）幹事】

このたび日本技術士会栃木県支部の幹事を拝命しました石附です。日本技術士会との関わりは、2015年から統括本部の修習技術者支援委員会で、副委員長を2年間、委員長を2年間、統括本部の研修委員会の委員を3年間務めさせて頂きました。また、IPD-WGや、IPD研究会に参加して、IPD（初期専門能力開発）について議論を深めてまいりました。今回、私の地元である栃木県支部で新米幹事として精一杯頑張りたいと思いますので、これからの2年間、どうぞよろしくお願いいたします。



※柏崎和久（経営工学部門）幹事

1968年生宇都宮市生まれ。中央大学理工学部電気電子工学科卒業後、関電工に入社。送配電関連業務に18年従事。その後、バイオマス発電ベンチャー、大型蓄電池ベンチャーを経て、日本電気株式会社（NEC）へ。NEC在籍時にエフビットコミュニケーションズの経営に携わり、2017年4月にエフビットコミュニケーション社長に就任。新電力エフビットでの経営手腕が買われ、2018年3月に退任後、ネクステムズ取締役として宮古島未来エネルギーの立上げにも参加する等、電力ビジネスにかかわる複数企業で経営やプロジェクトに携わる。2022年5月には、新電力HTBエナジーの事業譲渡にも関与した。近時は、複数の脱炭素先行地域において、計画実行の支援に携わる。また、複数のマイクログリッドプロジェクトのプロデュースを担っている。現在、日本海ガス経営顧問、環境エネルギー技術研究所経営顧問、西堀酒造パートナー、八洲建設ビジネスアドバイザー、SAKE RISE 代表、I. T. I. 代表取締役社長。



【島田源一（建設部門）幹事】

このたび、栃木県支部幹事に選任されました島田です。栃木県生まれで、佐野市に住んでいます。現在、(株)都市開発コンサルタントに勤務している企業内技術士です。技術士資格は、2015年に建設部門、2017年に総合技術監理部門を取得しました。日本技術士会には2013に入会し、昨年度は県支部防災支援小委員会に参加しています。今回、縁あって幹事になり、皆様のご協力を得て、県支部会員の皆様の活動に、微力ながら貢献できればと思います。



よろしくご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

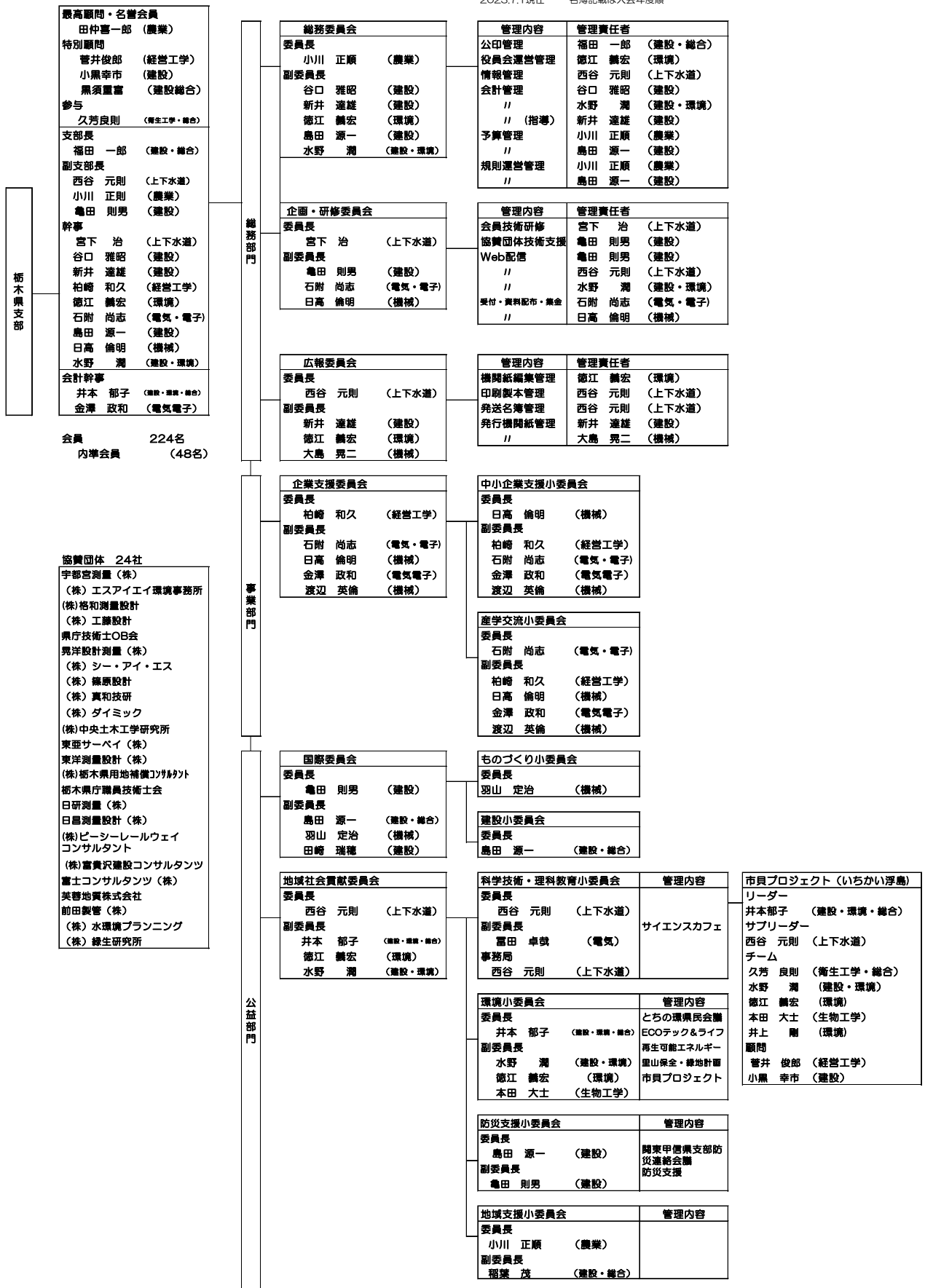
【日高倫明（機械部門）幹事】

この度、栃木県支部幹事を引き受けさせて頂くことになりました。2014年に登録して依頼、これまでは一会員の立場で年数回の行事に参加させて頂いておりました。企業内技術士のために限られた時間ではありますが、今後は県支部の会員皆様のご活躍の機会を増やすべく、微力ながら精一杯努めさせて頂きます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



「令和5年度 栃木県支部の組織」

2023.7.1現在 名簿記載は入会年度順



《特 集》

協賛団体若手技術者の紹介

1.自己紹介

晃洋設計測量株式会社

建設コンサルタント部

技 師 本保 優樹

趣味：旅行、ゲーム

「興味を持ったことはひとまずやってみる」をモットーにいろいろなことに挑戦しながら生活しています。

2.経 歴

宇都宮大学 工学部 情報工学科 卒業

晃洋設計測量株式会社 入社

3.若手技術者

- ・入社した動機は、別の会社の入社試験を受けた際に、人事の方から「当社のグループ会社で工学部の学生を募集しているので受けてみないか」と提案されたことがきっかけです。
- ・現在どんな仕事は、部署としては道路や河川の設計、上下水道の設計、交通量調査等様々な業務を行っていますが、私は道路の設計や交通量調査を担当することが多いです。
- ・現在興味のある仕事や技術は、本年度から3次元設計データの納品が原則化されたので、一生懸命勉強中です。
- ・技術士には、ぜひ挑戦したいと考えています。本年度は技術士補に挑戦します。
- ・将来の目標とは、「技術士」、「RCCM」等の資格を取得することです。

令和5年度 年次大会、講演会、合格祝賀会及び年次大会懇親会の報告

1. 年次大会

栃木県支部幹事 西谷 元則

(1) はじめに

令和5年6月10日(土)、日本技術士会栃木県支部の年次大会がニューみくら(宇都宮市)で対面とWEBにより開催されました。

年次大会には来賓3名、協賛団体1団体、会員27名が出席し令和4年度の活動及び収支報告、令和5年度の活動方針、さらに各委員会別事業計画について報告された。

(2) 報告事項

司会は福田副支部長、小川副支部長の開会宣言で始まり、以下の内容で報告された。

1) 支部長挨拶

昨年は、コロナ禍で多くの支部活動が制限されましたが、支部創立10周年記念式典を無事に挙行することができました。このことは、数多くの会員の皆様のご努力の賜物であると心から感謝申し上げます。今年度は、本部のコロナ対策方針廃止を受けて、新たな10年に向けた県支部活動を

行っていきたいとの挨拶であった。

2) 令和4年度事業報告について

各委員会の活動を小川副支部長が報告した。

日本技術士会栃木県支部創立10周年記念式典を開催することができ、会員の皆様を始め関係機関・団体の皆様方に感謝の意と講演会、CPD研修などは対面方式、さらにWeb配信のハイブリッド開催によって実施できた。しかし、地域社会貢献活動としての理科教育活動や中小企業支援活動などは十分ではなかったことを報告した。

3) 令和4年度収支報告、令和5年度収支計画について

令和4年度収支報告、令和5年度収支計画について新井総務副委員長から報告された。

4) 令和5年度活動方針

- ① 県支部活動10年間の実績を踏まえ、“会員の顔が見える会”を旗印として、会員の拡大による支部の強化とともに、会員及び協賛団体のために、対面方式とWEB会議方式を併用しながら、CPD講座、見学会、研修会を充実させる。
- ② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋に”となるよう市町等が抱える課題に対して社会貢献活動を展開する。特に、「市貝プロジェクトでは政策提言を踏まえた活動」や「コロナ禍で中止した科学技術・理科教育活動を再開」することで、地域社会と架け橋になる事業を実践する。また、防災支援小委員会を中心として県内関係団体や関東甲信支部と防災支援に関する情報共有を目指す。
- ③ 中小企業を支援する業務の拡大を図る。そのために、中小企業を支援する県の企業支援委員会や金融機関などと連携しながら、技術士業務の案内や具体的支援内容を紹介するとともに、依頼された業務の質の向上に努める。
- ④ 中国浙江省科技交流和人材サービスセンターや浙江同済科技職業学院とはコロナ禍で技術交流が中断したが、コロナウィルスの感染状況を見極めながら、Web交流を併用し、訪問往来の再開を目指す。
- ⑤ 以上の方針に沿う支部活動は、Speedy(スピード感)、Strategic(戦略性)、Sensitive(感受性)、with Smile(笑顔)の4Sに心がける。



(3) 令和5年度事業計画

総務委員会(小川委員長)、企画・研修委員会(宮下委員長)、広報委員会(西谷委員長)、企業支援委員会(萩原委員長)、国際委員会(亀田委員長)、環境支援・科学技術理科支援小委員会(西谷委員長)、防災支援小委員会(福田委員長)、地域支援小委員会(小川委員長)の各委員長から、それぞれの委員会活動について令和4年度実績と令和5年度計画の説明があった。



2. 講演会

1. 日時：令和5年6月10日(土)15時00分～16時00分
2. 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
3. 講師：栃木県産業労働観光部 工業振興課長 岡本 栄二氏
4. 演題：「技術士に期待すること」
5. 参加者：会員(正会員)約30名(内、Web受講者3名)、協賛団体1名
6. 講演概要

本県の産業構造を背景にした産業労働観光部の重点施策について講演いただいた。概要は以下の通り。

1) 栃木県産業構造

第2次産業の比率は滋賀県に次ぎ第2位（令和元年度）

製造品出荷額は第13位（令和2年度）

令和元年度県民一人当たりの所得第4位

2) 産業労働観光部 令和5年度 施策の柱と重点事業

①ポストコロナ等における産業の競争力強化・中小企業支援

- ・産業活性化金融対策事業として1340億円の融資枠を用意
- ・とちぎインバウンド強化対策事業として海外へ観光誘客拠点を台湾,タイ国,米国,中国に設置
- ・ものづくり産業躍進プロジェクト推進事業

未来3技術活用した次世代ものづくりの3産業を支援

- ・海外販路開拓支援事業
- ・国際交流推進事業
- ・戦略的な企業誘致：R4年度誘致件数35社（全国第7位）整備面積46ha（第11位）

②産業の持続的な発展に向けた取り組みの推進

- ・カーボンニュートラル実現に向けた産業施策の概要
- ・とちぎビジネスAIセンターの開設：DXを積極的に取組企業数 13.4% 全国平均 15.7%

③産業を担う人材の育成・確保

- ・人材育成・技能振興として県内外の若者が技術、技能を身につけられる「とちぎ職業人材カレッジ（仮称）」を設置

- ・働き方改革対応支援事業・とちぎテレワーク普及促進事業

- ・女性等に魅力ある雇用・産業の創出等に向けた事業



写真-3 講師の岡本課長



写真-4 講演会の様子

3. 合格祝賀会及び年次大会懇親会

栃木県支部幹事 新井 達雄

令和5年度の栃木県支部の年次大会の記念講演会の後、会場を隣に移して、技術士1次試験合格者及び2次試験合格者の方々を招待しての祝賀会及び年次大会懇親会（以下「祝賀会・懇親会」と称す）が催されました。祝賀会・懇親会は、隣との間隔をゆったりと取った明るく和やかな雰囲気の中で、進んで行きました。

会場の一隅には、令和4年度の技術士1次試験、2次試験に見事合格された4名（下写真）の新技術士の方々が揃われておりました。お一人お一人に自己紹介をしていただきました。合格した方々の、試験を受けた動機は様々でしたが、目標をもった若者が、それに挑戦して見事合格したという自信と、さらなるステップアップへの意気込みが伝わってきて、聞いていた我々（年長組）も思わず「若いエネルギーっていいな」と応援したくなりました。この方々全員が本支部の一員として入会して頂ければ、栃木県支部の発展も間違いないと確信する会になりました。



《活動報告》

「令和4年度_技術士を志す方への情報提供講座」について

栃木県支部幹事 宮下 治

本講習会は、土木学会関東支部栃木会と公益社団法人日本技術士会栃木県支部の共催で実施されました。

講習会の目的は、技術士を志す方へに対して、直近で技術士（一次・二次）試験に合格された方からの受験体験談を発表して頂きました。また、今後の受験に向けて講師・技術士とのフリートーキングを行い、技術士について理解を深めて頂くための講習会です。開催は、令和5年2月22日（水）18時～20時、会場は栃木県総合文化センター第2会議室で行いました。参加者は、産業界、官公庁から合計18名でした。



講師は、一次試験合格者の佐々木弘人也氏（㈱水環境プランニング）、二次試験合格者の山本義紀氏（㈱環境ラボ）、総合技術監理部門及び建設部門合格者の平山浩之氏（栃木県企業局）の3名の方にご協力を頂きました。

佐々木さんの勉強方法等は、以下のとおりです。基礎科目及び適正科目は、過去問と解説が一冊になっている問題集を購入した。基礎科目は、全体30問から8問正答で合格できる、割合で25%と思うと気が楽になった。不得手な分野には勉強時間を費やさないようにした。例えば、解析は現役学生向けの問題が多く、適性科目は過去問の演習で充分対策ができ、専門科目は過去問の流用が多いので暗記で乗り切った。試験当日の注意点は、筆記用具の確実な準備、解答する問題数の確認、解答の塗り間違い、お昼の準備、休憩時間にはお手洗いにいく、焦りと諦めはNGとの4アドバイスがあった。



山本さんの勉強方法等は、以下のとおりです。口頭試験を意識して申込書を作成する。専門的知識を身につける。技術部門の問題、課題の情報収集をする。重要キーワード集を作成する。模範解答を書き写す。過去問や例題を解いてみる。出題傾向をつかむ。これらのことを基に想定問題を自分で作成して解答をする。また、技術士の勉強と同時に関連資格の試験にチャレンジした。その結果、環境計量士、公害防止管理者（大気、騒音振動、ダイオキシン類、水質）に合格できた。受験になれることも合格への一歩と思う。最後に、あきらめずに受験することが合格につながるとのこと。



写真-3 山本義紀氏

平山さんの勉強方法は、以下のとおりです。試験に必要な知識・技術を習得する。日々の業務の中で培う技術、関連する専門誌などからの知識をしっかりと身につけることが大事である。解答のポイントは、時間内に問われていることを所定用紙に最後の行まで書くこと、自分の考えを明確に表現すること、このためにはひたすら書く練習が必要である。集中して勉強することが大事である。ゴールデンウィークから本格的に着手し、直前1か月前は特に集中した。真面目に仕事に打ち込んでいれば、技術士に必要な知識・技術は身につけている。きちんと受験の準備をすれば、「合格」できると力を込めて受講者に話をしていた。



写真-4 平山浩之氏

講師のお話を聞いて、勉強方法には個人差があるが、受験準備の大切さは伝わったと思います。本日の講習会を受けて、これから受験される方が自分にあった受験準備をみつけられることを期待したいと思います。

「第15回いちかいサシバの里めぐり」ミニ浮島ワークショップの報告

いちかい浮島プロジェクトメンバー、栃木県支部協賛団体 井上 剛

1. 実施日時 : 令和5年6月11日(日曜日) 10:00~15:00
2. 場 所 : 旧小貝中央小学校(〒321-3404 栃木県芳賀郡市貝町続谷 1143-3)
3. 参加者 : 市貝プロジェクト(いちかい浮島)メンバー 5名
(井本郁子、西谷元則、徳江義宏、水野潤、井上剛)

4. 概 要

旧小貝中央小学校にて、「いちかいサシバの里めぐり」に訪れた方々を対象として、ミニ浮き島づくりワークショップを行いました。

市貝プロジェクトとは、キンブナの養殖を目的とした廃校プールにおいて、植生浮島を製作することで、「地域固有の植生を保全・活用」や「生態系による水質改善」及び「生態系の機能回復」など可能性を検証することを目的としたプロジェクトで、2019年度から3年間、調査・研究を推進してきました。そして、これまでの成果をより多くの方々に知っていただくために、「いちかいサシバの里めぐり」の開催に合わせて、いちかい浮島プロジェクト活動のパネル展示により成果発表やミニ浮き島ワークショップを実施しました。

開催当日は、雨が降ってしまったために大盛況とまではいきませんでした。これまでの

浮島プロジェクトの成果について、地域の方々が熱心にお話を聞いて下さったり、また子供たちがミニ浮き島ワークショップに参加してくれたりするなど、地域との交流を十分に図ることができました。特に、ミニ浮島ワークショップでは、参加した子供たちの創意工夫を尊重し、ミニ浮き島のデザインから考えてもらうとともに、安全面に配慮した上で、竹をノコギリで切断、電気ドリルで穴を空けて麻ひもで浮島を固定させるといった技術的に難しいことにもチャレンジするなど、参加者・主催者ともに印象深いワークショップとなりました。

また、プロジェクト時に作成してプールに浮かぶ浮島では、夏季を前に植物の成長が旺盛となり、勢いよく水中に張り出した根の周りでは、生まれたばかりのキンブナ（環境省・栃木県 RDB：絶滅危惧Ⅱ類）の生息利用が確認されるなど、生物多様性の維持・向上にも寄与していることが明らかとなりました。

私たちは、これからも自然資源を用いた地域活動・活性化に貢献していきます。



写真-1 浮島プロジェクト成果説明中 写真-2「ミニ浮島」完成！写真-3 勢いよく成長した浮島の植物

令和5年度_7月期 CPD 講演会の報告

栃木県支部幹事 宮下 治

1. 日時：令和5年7月8日(土)13時30分～15時
2. 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
3. 講師と演題：田仲 R&D 技術事務所所長 田仲 喜一郎氏、
「干拓造成地の持続的維持管理に関する研究」
4. 参加者：29名（会場受講：技術士22名、技術士補2名、Web受講：技術士5名）
5. 講演概要：

講演会は、会場参加とWeb配信のハイブリッド方式で実施された。講師の田仲喜一郎氏は、今年3月に東京農工大学から学位（博士）を授与されました。今年で88歳を迎える栃木県支部の会員です。技術士法第47条の2より「技術士は、常に、資質の向上を図るように努めなければならない。」と記されていますが、これを実現されている技術士が講師の田仲喜一郎氏です。



写真-1 講師の田仲喜一郎氏

講演の内容は、学位論文「干拓造成地の維持管理に関する研究」です。農林水産省に入省以来一貫して干拓事業に従事されています。河北潟干拓事業、八郎潟干拓事業、笠岡湾干拓事業、諫早湾干拓事業などが主な事業です。これらの経験が学位論文の研究に反映されています。

完成した干拓事業が終了した後の維持管理についてどのように実施するかが課題となっていました。まず手掛けた作業は、情報収集・整理、データ分析などをもとに現在の施設がどのような状態にあるか把握することでした。多くの施設は、「随時補修」で施設の機能保全を図るための補修工事等その都度の対症療法的措置でした。これからの維持管理は、施設の全体をみて「インフラ長寿命化基本計画」に基づくストックマネジメントより計画的・効率的に行うことでした。また、河北潟干拓事業で検討した施設維持管理の実態分析が重要と考えていました。

日本のインフラ施設は50年以上経過しているものが多く、各事業分野で長寿命化計画を立案し、ストックマネジメントによる維持管理を実施している現状にある。建設コンサルタントの技術者として、維持管理においても真摯に向き合って行動したいと考えます。

講演会后に田仲喜一郎氏と今回会長受賞した菅井俊郎氏、小黒幸市氏の祝賀会が開催され約20名の関係者で3名を祝いました。



写真-2 講演会の様子



写真-3 祝賀会の様子

《投 稿》

上下水道コンサル若手技術者交流会の開催

栃木県支部協賛団体 工藤設計、真和技研、水環境プランニング

1.研修会概要

令和5年5月19日(木)13:30~16:30に(株)工藤設計3階会議室において、栃木県支部の協賛団体の3社と県内上下水道コンサルタント1社で「第2回 若手技術者交流会」を実施しました。目的は栃木県内上下水道コンサルタント会社間の交流及び情報共有とし、若手人材育成や技術力向上など4社共通で取り組む場として開催しました。

- 参加者：工藤設計 3名（協賛団体）
- 真和技研 1名（協賛団体）
- 水環境プランニング 10名（協賛団体）
- パスキン工業 2名 他各社役員

- 13:30 開会挨拶：佐藤社長（パスキン工業）
- 13:40 自己紹介タイム
- 14:15 若手技術者発表（発表 15~20分）
 - 「内水浸水対策の今とこれから」
 - 「非常用発電機設備更新設計業務事例」



写真-1 技術発表の様子

水環境プランニング 杉山 茉奈氏
工藤設計 千葉 彩花氏

「行政区域堺雨水排水検討業務」

パスキン工業

星 悠介氏

「下水道管きよ改築更新設計業務 事例報告」水環境プランニング

藤本 大成氏

15:15 評価・開会挨拶：西谷社長（水環境プランニング）

15:25 ワークショップ「リーダーシップ論」 / 講師：阿久津社長（工藤設計）

18:30～ 懇親会の締めめの挨拶杉山社長（真和技研）

2.内 容

技術発表会のトップは、水環境プランニングの杉山氏による「内水浸水対策の今とこれから」というテーマで群馬県内の浸水対策事例とこれからの流域治水への取組みについてセンス良くまとめられたスライドでわかりやすい事例発表があった。2番手は工藤設計の千葉氏です。非常時用発電機の更新設計の事例で、千葉氏の提案と客先の要望をバランスよくとりまとめた事例発表でした。3番手パスキン工業の 星さんは行政区域堺雨水排水検討業務の事例発表でした。行政を跨ぐ排水をどのように排除するか比較検討を行い、理想的な排水系統を提案した事例であった。最後に「下水道管きよ改築更新設計業務の事例報告」と題し、水環境プランニングの藤本氏の発表は、第1回の技術発表会の事例を参考にして「粘り強く交渉すること」を自分の目標として、施工法をメーカーに相談して自分の考えた工法で施工する設計ができた事例でした。今回は女性技術者の発表が半数なり、今後の女性の活躍が期待できます。さらにすべて技術面やまとめ方など若手技術者のレベルが高いと感じました。

ワークショップは4テーブルに別れ、「自分の上司のリーダーシップについて」と「自分たちがリーダーになった時のリーダーシップ」のワークショップで、各テーブル和やかに討論していました。



写真-2ワークショップの様子



ロープウェイ



ケーブルカー遺構



ケーブルカー遺構の看板



味噌コーンラーメン

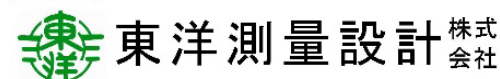
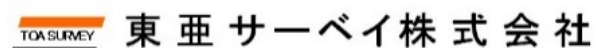
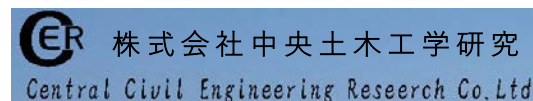
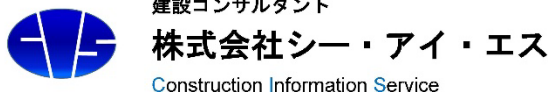
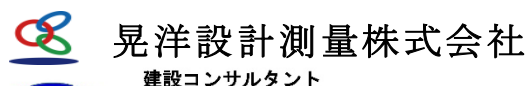
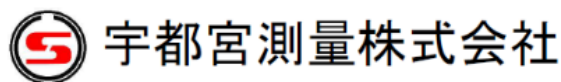
広報委員長のよもやま話

日光市の第2いろは坂途中の明知展望台に4月16日に久しぶりに行ってきました。ロープウェイの再開（再会）と歴史を感じてきました。日光鋼索鉄道（ケーブルカー）遺構が展望台の目下であり、昭和7年に営業を開始したそうです。東武鉄道の日光東武駅からこの馬返の軌道線を経てこのケーブルカーなどで東京から奥日光まで一貫輸送網が存在していました。昭和40年には第2いろは坂の開通によりバスや自動車にシフトされ昭和45年に38年間の幕をおろした。

その後、奥日光から第1いろは坂を下り、日光市所野にある「ラーメンあかしや」で昼食。味噌コーンラーメンを注文！特徴はコーンがねっとりしたペーストになっていることです。レンジの中でペーストコーンと味噌スープをまぜ、麺と一緒に頂きます。

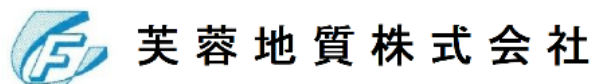
あまりラーメンを食べない私ですが、やみつきになっています。是非、足を運んで見ては如何でしょう。

協賛団体（五十音順）



—栃木県職員退職者の熟練技術者—
栃木県庁 OB 職員技術士会

栃木県県庁職員技術士会



編集後記

7月の本部理事会により新役員が承認され、新体制で栃木県支部がスタートしました。2年3期にわたり黒須前支部長には県支部をまとめ、活発な活動に貢献されたました。大変お疲れ様でした。また新任の福田支部長にはこれまで以上に充実した県支部活動に期待したいと思います。新役員4名にはこれまで築き上げてきた県支部の歴史と文化を大切にしつつ、これまでにない活動等のアイデアを出し合いながら、会員増加、知名度向上、社会貢献に寄与出来ればと考えています。今年は、これまで歴代の支部長の菅井俊郎氏、小黒幸市氏が会長賞受賞、さらに名誉会員でおられます田中喜一郎氏の学位取得など祝賀ムードとなっており、県支部の活動に拍車がかかると思います。皆様の活動投稿等もお待ちしております。

公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 会報 第19号 2023年8月発行
 発行者 栃木県支部（支部長 福田 一郎）
 広報委員会：委員長 西谷元則
 副委員長 徳江義宏、新井達雄、大島晃二
 委員 大岩正通
 事務局 〒321-0954 宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内
 Tel: 028-678-8600/Fax: 028-678-8630